

12月に開催したシェアカン（指導医と研修医とが臨床経験を共有（”シェア”）し、1つの症例から最大限学ぶ方法を考える”カンファレンス”）の内容をシェア致します。

呼吸器内科 吉田匠生 先生の司会で、

- ① 胸部X線写真のみかた
  - ② 造影剤腎症について
- の2回を開催しました。

胸部 X 線写真の回では、呼吸器内科の視点からまずルーチンの読影手順を解説して頂きました（「人のハイ」）。

その後、吉田先生または参加者が過去に経験した、細菌性肺炎・胸膜炎、肺結核、肺癌、COPDなどの症例を提示し、専門医へ直接”ぶつかり稽古”をつけて頂きました。

当然ではありませんが、初見の画像についても全て異常を指摘されました！

レントゲンを皆で眺めて学ぶ、貴重な機会となりました。

造影剤の回では、腎臓内科 水富一秋 先生より造影剤使用後に腎障害を含む副作用を来した症例を提示して頂き、次いで日本腎臓学会、日本医学放射線学会、日本循環器学会の3学会合同で作成された『腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2018』の内容を紹介して頂きました。

同じく腎臓専門医である鈴木も交えて、造影剤腎症の概念や補液の対応、カテーテル検査前後の対応など、診療ガイドラインの記載に基づいて適宜コメントしました。

予想以上に参加者から多くの質問が出て、専門医・非専門医・学生/研修医ともに理解が深まりました。

今後は吉田先生により、院内他科の先生方にお声掛けし、各専門領域での診療経験をありのままに語って頂くカンファレンスを作っていく予定です。

専門医にとっての常識は、非専門医/研修医にとって未知であったり、新鮮に感じられるものであったりします。

他領域の専門医から話を聞くことで、指導医も研修医に戻ったような気持ちで学ぶ喜びを実感しています。

毎回、学生/研修医よりも指導医の方が盛り上がりすぎてしまい、学生/研修医を置いてけぼりにしている感はありませんが、指導医達がワクワクしながら”学び続ける背中”を見せることで何かを感じ取ってもらえればと思います。

おかげ様で 2019 年は院内外の多くの方にカンファレンス記事を御覧頂き、「加賀市医療センターは教育を頑張っているね」などお声掛け頂く機会が増えました。

救急車の受け入れ数が石川県内 3 位と多忙な地域の病院で、教育を続けるには大変なエネルギーを要しますが、記事を見て頂いている皆様の“いいね！”やお声掛けのおかげで指導医一同モチベーションを高めて取り組んで参りました。

改めて、関係の皆様に御礼申し上げます。2020 年も加賀市医療センターの教育・研修に御理解と御協力の程、宜しくお願い申し上げます。

文責：内科・リウマチ科（研修担当） 鈴木 康倫